

# フォスタリングチェンジ・プログラム 2017年度実施報告



SOS 子どもの村 JAPAN

a loving home for every child



はじめに .....	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて .....	02
プログラムの概要 .....	05
2017年度の実施概要 .....	07
実施報告	
福岡 .....	08
久留米 .....	09
静岡 .....	10
山梨 .....	11
三重 .....	12
熊本 .....	13
宮城 .....	14
大分 .....	15
長野 .....	16
東京 .....	17
千葉 .....	18
里親会学習会 .....	19
フォローアップセッション .....	20
プログラムを終えて里親さんの感想 .....	21
プログラムに関する里親の評価 .....	23
ファシリテーターフォローアップミーティング .....	25
プログラム普及のための取り組み .....	27
総括 2017年度の実践と今後の展開 .....	29

## フォスタリングチェンジ・プログラムのさらなる普及を願って

## — SOS子どもの村JAPANからのメッセージ —

| 常務理事 坂本 雅子 |

「(特)SOS子どもの村JAPAN」は、2005年から福岡市で始まった児童相談所と「(特)子どもNPOセンター福岡」の協働の里親普及支援事業「新しい絆プロジェクト」から生まれました。この中で、私たちは、「国連子どもの権利条約」で定められた子どもの権利である家庭養育が、わが国は大きく立ち遅れていること、「里親推進」と「支援のしくみづくり」を両輪として取り組むことが急務であることを知りました。そして「すべての子どもに愛ある家庭を」のローガンで世界に展開する「SOS子どもの村をわが国に」という活動を開始、2010年に福岡市西区に「子どもの村福岡」を開村しました。現在、里親がチームとなって、「専門家支援」のもと「地域とともに」子どもたちを育てています。また、地域で困難を抱えた家族のために一時保護やショートステイの受入れ、「休日・平日夜間の相談」、「里親専門研修」などを行っています。

この里親養育と支援の実践の中で、上鹿渡和宏長野大学教授がわが国に導入しようとされていた「フォスタリング

チェンジ・プログラム」を知り、今までの里親研修にはない「新しい研修」であるこのプログラムを里子の問題行動に日々苦勞しておられる里親さんにぜひ届けたいと強く思いました。幸い、日本財団や福村出版からの支援をいただき、イギリスからキャシー・ブラッケビィ、キャロライン・ベンゴ両先生をお招きし、第1回の「ファシリテーター養成研修」を行い、福岡と熊本で実践することができました。今年度は、さらに11の自治体で展開されました。

現在、日本の子ども家庭福祉は、児童福祉法改正に引き続き、「新しい社会的養育ビジョン」にそった「各都道府県推進計画」の策定など、里親養育へと大きく進もうとしています。この大きな動きにあわせて広がっていくであろう「フォスタリング機関事業」の中で、このプログラムの導入が進むことを願って、第2回の報告書をお届けいたします。



## フォスタリングチェンジ・プログラムについて

| 長野大学 教授・精神科医 上鹿渡 和宏 |

2016年に改正された児童福祉法に「子どもの権利と保護者・国・地方公共団体の責任」と「家庭養育優先原則」が示され、今後各都道府県は推進計画を見直すこととなりますが、特に代替養育については里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題です。この課題に取り組むにあたっては以下の二つが必要と考えられます。

一つは、里親と協働し子どもを養育するための組織・システムです。これについては今後国から示されるガイドラインをもとに、包括的で一貫した里親養育支援としてのフォスタリング業務を各都道府県でどう実践していくか具体的な検討が始まるでしょう。もう一つは、里親それぞれが日々の生活の中で子どものニーズに気づき、様々な問題に自ら対応できるようになるための研修です。認定前の研修については法定化され実施されていますが、子どもが委託された後、子どもとの関係構築や改善、問題行動への対応等についての研修はこれまで実施されることは少なく、また、実施しようとしてもどのような研修が効果的なのかわ

からない状況にありました。

英国においても委託後の里親研修について同様の課題があり、その解決に向けて1999年にフォスタリングチェンジ・プログラムが英国ロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されました。アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動療法に基づき、ペアレントトレーニングの考えも取り入れられています。週1回3時間程度、里親グループ(1グループあたり6~10人程度)でのセッションを12回(約3か月)実施します。社会的養護下にある子どもの抱える問題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解とそれに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの問題行動の背景にある子どものニーズに気づき、対応できるようになることを目指すプログラムです。里親に個別の「答えを与えるプログラム」ではなく、里親が「自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を提供するプログラム」といえます。さらに、里親自身の自尊感情や自信を回復することの重要性が明



示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。

このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。子どもの問題行動の解決のみに焦点化するのではなく、前半では、子どもとの良好な関係形成に特に力を注ぎます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後半で学ぶこととなります。エビデンスが明らかにされているスキルであっても、そもそも里親が子どもにとって自分のことを大事にしてくれる人、信頼できる人と思われていなければ、そのスキルが子どもにとっての本質的解決をもたらすことはほとんどないでしょう。

また、このプログラムでは実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用

いたの評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、ランダム化比較試験(RCT)という信頼性の高い研究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされています。その研究結果によれば、里親自身が最も困難と感じていた子どもの問題行動が改善し、子どもと里親との間のアタッチメントについても改善が見られました。また、このプログラムに参加した里親の多くが自信を得て、自尊感情を回復し、ストレスが少なくなり自分の知識やスキルが増えたと感じていることがわかりました。

日本への本プログラム導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が中心となり、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。企画委員会には自治体(児童相談所)、里親支援を実践するNPO、里親会、施設からその責任者や代表者が委員として参加し、新たに里親養育支援という重要な役割を担っていくことになる関係者が集う場となりました。第1回フォスタリン





グチェンジ・ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡で実施され20人のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初のプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からも好評でした。フォスタリングチェンジ・プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、本プログラム以外でも個別の相談場面でそれぞれに応じた助言にも生かすことができることもわかりました。その後、熊本でも乳児院を会場にプログラムが実施されました。また、2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所(里親数にすると70人ほど)で里親向けプログラムが実施されました。このうち約半数は乳児院や児童養護施設の里親支援専門相談員等が中心となって実施されました。2018年3月には第3回ファシリテーター養成コースが長野県で開催され、2018年8月に宮城県、2019年3月には和歌山県での養成コース開催に向けて準備が進められています。プログラム実施による成果を客観的に評価していくことも

計画しています。

フォスタリングチェンジ・プログラムが全国各地で実施される中で、様々な変化が見えてきました。子どもだけが「変わる」のではなく、里親自身、里子と里親の関係、里親支援者自身、里親と里親支援者の関係も「変わる」ことで、それまでの様々な困難が改善しているようです。特にプログラムに参加された方の「今まで里親として、これほど大事にされたことはなかった。」という感想は、今後里親養育の質を高める支援にまず何が必要とされるのか(これは里親が子どもを養育するにあたって同様に必要とされるものですが)を示しているように思います。今後このプログラムを実施できる地域が広がり、一人でも多くの子どもに最善の変化がもたらされることを期待しています。



上鹿渡 和宏教授、モーズレイ病院キャシー&キャロラインとともに

## フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

| 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

### プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 週1回3時間、グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
- 対象者は、実際に里子を委託されている里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

### プログラム内容は、右図のフラワーパワーに示されているような4つの要素からなっている。

- 養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となる。
- 以下の①から④の順番でセッションが実施されるよう構成されている。
  - ① 関係性を強化する～褒める、アテンディング(肯定的注目)、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ご褒美表、遊び
  - ② 教育～子どもの学習を支援する、宿題方略、子どもの読書を支援する、学校とコミュニケーションを取る
  - ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、アイ・メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④ ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

### さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

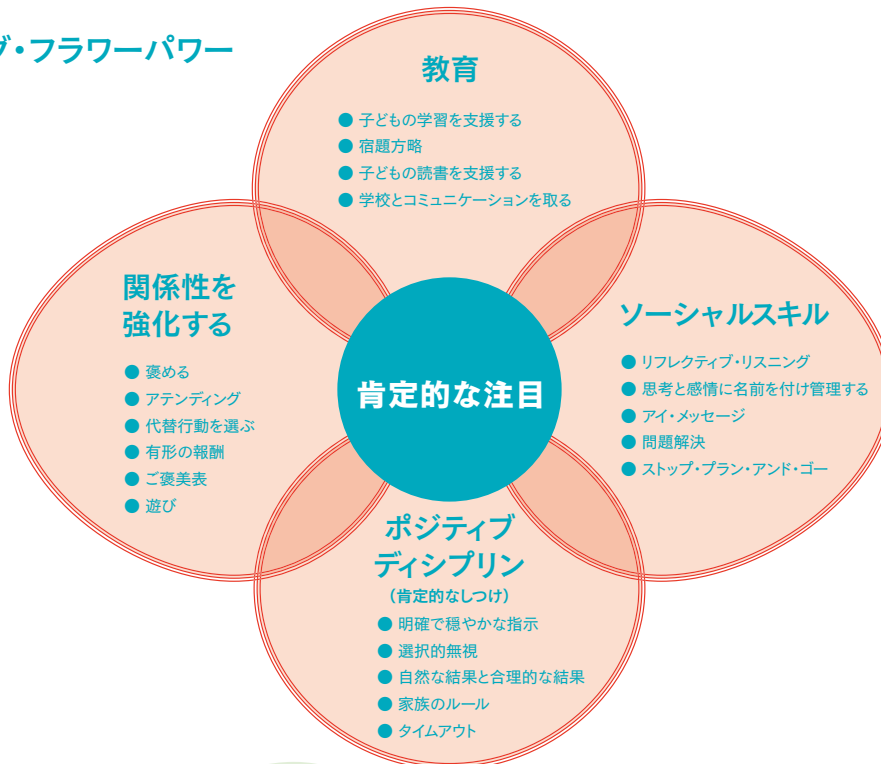
最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し規定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は、基本的に1人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習実践を試行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。



## セッション内容

題目	具体的内容
1 グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	グループワークのきまり、子どもの経験、発達に関する理解と問題の再認識、行動を観察し記録する
2 行動への影響：先行する出来事および結果	アタッチメント理論、社会的学習理論、行動のABC分析
3 効果的に褒める	行動の根底にある子どものニーズを考える、肯定的行動を促すために褒める、代替行動を選ぶ
4 肯定的な注目	遊びの利点、アテンディング(肯定的な注目をういて共にいること)、描写的コメント
5 コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	効果的なコミュニケーションのためのスキル向上、リフレクティブ・リスニング感情に名前をつける
6 子どもの学習を支援する	特別な教育ニーズ、子どもの読書を支援する、思考と感情を管理する：否定的自動思考
7 ご褒美およびご褒美表	子どもが感情を調整するのを支援する、アイ(私)・メッセージでコミュニケーションを取る、ご褒美表を使って肯定的行動を強化する
8 指示を与えることおよび選択的無視	効果的な指示、注目の別の使い方：選択的無視
9 ポジティブ・ディシプリン(肯定的なしつけ)および限界の設定	しつけの必要性、家族のルール、限界を設定する、自然な結果と合理的な結果(子ども自身の学びを支持する)
10 タイムアウトおよび問題解決方略	適切なタイムアウトの実施方法 問題解決のための枠組み：ストップ・プラン・アンド・ゴー
11 エンディングおよび総括	子どものライフストーリー理解を助ける、中等学校への移行、プログラムの復習
12 肯定的変化を認め、自分自身をケアする	養育者自身のケア、自尊感情の重要性

## フォスタリング・フラワーパワー



観察  
明確に、具体的に、ABC分析

## 2017年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

| 松崎 佳子 |

日本へのFCP導入に向けてNPO法人SOS子どもの村は、2015年度より日本財団の助成を受け、学識経験者、児童相談所や里親会、施設経験者からなる企画委員会を立ち上げ検討し、2016年3月福岡においてファシリテーター養成研修を実施し、20名のファシリテーターを養成しました。

2016年度は、福岡、熊本において研修を実施しました。週1回、3時間、12回という継続研修であるにも関わらず、出席率は97%と好評で、委託後の研修として有効性の高いプログラムであると実感しました。そして、2017年3月東京において第2回ファシリテーター養成研修が実施され22名が修了しました。ファシリテーターの養成研修は、できるだけ同じ地区・機関から2名受講してもらい、具体的な実施に繋がるようにしています。

これを受けて、2017年度は、以下のとおり11ヶ所で実施され、平均出席率は93.3%と非常に高く、参加里親から「子どもとの関係がよくなった」など高い評価を得ることができました。

実施期間は、5月～8月が5ヶ所、9月～12月が6ヶ所と春季、秋季に分かれています。実施機関は、児童相談所、里親支援に関わるNPO、乳児院、児童養護施設などが単独で、または協働で実施するなどさまざまですが、どの地区も児童相談所の協力を得ています。各地区、家庭訪問でのプログラムの説明や家族の状況の把握から始まり、暖かい雰囲気、里親の自主性やグループでの活動を大事に実施しています。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
福岡	5月～7月	6名(養育里親4名、FH 1名、養育補助者1名)	児童相談所・NPO 子ども家庭支援センター
久留米	5月～7月	4名(養育里親4名)	乳児院・児童養護施設
静岡	5月～7月	6名(養育里親)	NPO 里親家庭支援センター
山梨	5月～7月	6名(養育里親4名、専門里親1名、FH 1名)	児童相談所
三重	5月～8月	9名(養育里親6名、FH 2名、養子縁組1名)	児童相談所
熊本	9月～11月	6名(養育里親4名、養育補助者1名、地域小規模児童養護施設1名)	フォスタリングチェンジ Team くまもと
宮城	9月～11月	7名(養育里親4名、FH 1名、養子縁組2名)	里親支援センター
大分	9月～12月	9名(養育里親4名、FH 4名、児童養護施設1名)	児童相談所・児童養護施設
長野	9月～12月	6名(養育里親6名)	乳児院
東京	9月～12月	9名(養育里親9名)	乳児院(里親支援機関)
千葉	10月～12月	9名(養育里親5名、FH 2名、養子縁組2名)	県児童福祉施設協議会・里親支援専門員会

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子(理事、臨床心理士) 杉村 洋美(臨床心理士)  
福岡市こども総合相談センター里親係 高橋 恵子(里親対応専門員)・高橋 三津子(里親対応専門員)

- 【実施主体】 SOS子どもの村JAPAN 福岡市こども総合相談センターえがお館
- 【実施期間】 平成29年5月12日～7月28日(毎週金曜日) 10時～13時  
最終回は10時～15時 全11回  
※7月21日は終業式のため1週休み。翌週にセッション11、12を実施。
- 【実施場所】 福岡市こども総合相談センター 家族療法室
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名)  
出席率97%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】 平成29年10月16日 平成30年2月16日



### 実施状況

平成29年度のフォスタリングチェンジ・プログラムは、参加者募集を3月中旬～4月上旬に実施。家庭訪問が5月連休前後。受講要件を満たす里親さんへチラシを配布し、自発的申し込みは4名、加えてこちらから里親と養育補助者各1名に声をかけ、快諾していただいた。

### まとめ

プログラムを通じて、「原点復帰できる基礎ができた」「少し工夫すれば楽しんで養育ができる」など今後の養育に対する自信が育まれたことが窺え、前年同様、フォローアップへのニーズは高い。最終回到連絡先を交換し、現在もSNS(LINEグループ)で交流が続いている。

### プログラム時に工夫したこと

今回は、ローテーション制を試行。

毎回、分担表を作成。メインファシリテーターを2名とし、残り2名はロールプレイや板書、資料配布を担当。家庭での実践を担当した人が次回のフィードバックを必ず担当し、毎回1名ずつ交代して実施したが、参加者に戸惑いはなかった。

また、シナリオを日本人名に変更するなど、日本になじみにくいものを日本語に置き換えると、取り組みやすさが格段に上がった。



修了式集合写真

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 久留米

社会福祉法人慈愛会 児童養護施設 清心慈愛園 原田 三津子(里親支援専門相談員)  
社会福祉法人慈愛会 乳児院 清心乳児園 内山 悠子(臨床心理士)

- 【実施主体】 社会福祉法人 慈愛会 清心乳児園(乳児院)・清心慈愛園(児童養護施設)
- 【実施期間】 5月9日～7月18日(毎週火曜日) 10:00～13:00/最終日10:00～15:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 慈愛会 乳児院 清心乳児園(心理棟『ひだまり』)
- 【参加里親】 4名(養育里親4名、ファミリーホーム0名、養子縁組0名、養育補助者0名)  
出席率85%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ4名(児相職員、児童養護施設職員、助産師)
- 【フォローアップ】 1回実施(平成30年2月23日 10:00～13:00)

### 実施状況

少人数のグループでしたが、アットホームな雰囲気で開催することができました。諸事情により欠席や途中退席などもみられましたが、少人数だからこそ毎回復習の時間が多く取れ、フォローをしていきました。スタッフは、様々な専門職がいたことで参加者からの相談にも対応でき、関係機関との連携もスムーズでした。また、事前準備や当日のお手伝い等でも大変助かりました。

プログラムを通して、「褒める」という当たり前のことを忘れていた「自分が変われば子どもが変わると気付くことができた」「自分に余裕ができた」といった感想が聞かれました。また、他の里親の話の聞いたことが有意義であったとの感想もあり、養育技術を提供するだけの研修ではなく、関係性を大切に育む視点や、里親主体で考え・話し合い・実践するといった本プログラムの良さが活かされていたと感じます。

### プログラム時に工夫したこと

施設での開催であったため、同じ社会的養護の子どもを養育する立場として、「支援者とともに考えるチーム養育」を意識しました。研修中はもちろん、その他にも託児や育児相

談では乳児院保育士や看護師が対応しました。昼食が必要な回では、施設の食事を提供し、より里親にとって施設が身近な存在に感じられるよう工夫をしました。

### まとめと課題

半年後のフォローアップでは、「(プログラムで使用した)ファイルを見たら冷静になれる」と言われた参加者がいました。長い研修でしたが、そこで得た感覚、自信が継続していることに嬉しさを感じました。

一方で、常に新たな問題にも対応していかなければならない里親の現状も実感し、個別の家庭で養育を担う里親への継続的な支援の必要性を感じました。今後は、参加したいが仕事があるといった里親向けに、夜間や土日開催なども検討し、本プログラムをより広めていく必要があると感じます。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 静岡

NPO法人静岡市里親家庭支援センター 佐野 多恵子 ・ トマジ 里絵

- 【実施主体】 NPO法人静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 5月9日～7月25日(毎週火曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 静岡市郊外のログハウス(里親所有)
- 【参加里親】 養育里親6名(静岡市児童相談所所管)  
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名 アシスタント2名
- 【フォローアップ】 10月24日・1月23日(2回)



### FCP実施の経緯

乳幼児から継続して同じ里親家庭で養育されていても、成長するにつれ“社会的養護が必要な子どもに多くみられる問題”が起こることが分かってきた。同時に年長児の委託も増えたため、同プログラムを実施した。

### プログラム実施準備と心掛け

- 大人を迎える気配りともてなし(英国流)  
子どもと自分自身を丁寧に大切に扱う。
- 柔軟なペア構成⇒内容に合わせて
- プログラムの中でのソーシャルワーク⇒テキスト中の理論に、ファシリテーターがエピソードや事例を織り交ぜて説明し、生活の中で方略活用しやすいように導いた。

### 子どもの変化と里親子の関係性の変化

- 里親が自身の気持ちや行動に目を向けた。(自分自身を肯定的に見る)
- 子どもの「良くないところを直す」→「良いところを強化する」に変化。
- 子どもの行動に目くじらを立てなくなったことで子どもが落ち着いた。
- 親としての自信が持てるようになった。
- 子どもに対して「使える方略」を常に考えるようになった。



### フォローアップセッション

- プログラムと同様の形態で実施。
- 各回とも近況報告の後、フラワーパワーの復習、題目を設けたグループワークとロールプレイを行った。

### 修了後の参加者の様子

- 里親仲間に受講を勧める。
- グループの繋がりを継続(LINE)。  
気軽に学校への対応等を相談
- フォローアップ研修(2回)の他、一般里親向けスキルアップ研修にゲスト参加した。

### 来年度以降のフォローアップ

- ①平成30年度プログラムに6名が交代でアシスタントとして参加し、セッションサポートとプログラム復習を兼ねる。
- ②自主開催/グループが日程・場所等を取りまとめ、経費も自己負担で実施する。4回予定
- ③個別面談(不定期)/ファシリテーターが方略のアドバイスを個別に行う(関係性の継続)。

### 運営上の課題

- 継続的開催(会場・運営 等)
- ファシリテーター養成(補充要員)
- 実施に伴う経費の安定的確保
- プログラムの質の確保

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

山梨県都留児童相談所 安留 昭人  
乳児院ひまわり 大原 恵美子

- 【実施主体】 山梨県中央児童相談所
- 【実施期間】 5月12日～7月21日(毎週金曜日) 開始時間10時～終了時間13時
- 【実施場所】 山梨県中央児童相談所 会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、専門里親1名、ファミリーホーム1名)  
出席率95.8%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、補助職員(中央児童相談所職員)5名



### 実施状況

今年度は試行だったため、条件を満たす里親に声をかけ、参加里親を決定しました。参加里親は女性6名で、参加里親が本プログラムの対象とした里子は、3歳女兒、4歳男児、7歳男児(2名)、8歳男児、8歳女兒でした。

ファシリテーターは、児童相談所の児童福祉司と乳児院の里親支援専門相談員がなり、講義やロールプレイなどを行いました。板書、資料配布、タイムキーパーなどの補助については児童相談所職員が行いました。

他の実施地区で報告されていた時間超過等の問題はありませんでした。参加里親の発言が少なく、討論が活発に展開しないというセッションがありました。しかし、フォローアップミーティングでの助言を实践したところ、後半からは討論が活性化し、良い形で修了することができました。

という懸念がありました。そのため、ファシリテーターは参加里親が自由に発言できる雰囲気作りを事前家庭訪問の時点から心掛けました。

### まとめと課題

1回3時間のセッションを3か月間毎週実施することは、参加里親にとっても実施主体者にとっても負担が大きかったですが、参加里親のプログラムに対する評価は非常に高く、実施主体者もその有効性を感じることができました。この有効性を里親、県、児童相談所、関係機関にどのように啓発し、協力を得ていくかが、今後実施していく際の1番の課題であると思われます。

### プログラム時に工夫したこと

児童相談所が実施主体であったため、里親や里子の状況は把握しており、プログラムの進行時の事例やコメント等はやりやすかったです。その一方、措置権を持つ児童相談所が実施することで、参加里親が本音を出しにくいのでは



最終日  
修了記念の1枚

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 三重

三重県北勢児童相談所 野田 珠輝・村木 裕一

- 【実施主体】 三重県児童相談センター
- 【実施期間】 平成29年5月11日～8月3日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 三重県児童相談センター 研修室 (三重県津市)
- 【参加里親】 9名(養育里親6名、ファミリーホーム2名、養子縁組里親1名)  
出席率97%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名に加えて、協力スタッフ4名、  
オブザーバー1名(県内の里親支援専門相談員が週替わりで参加)



### 実施状況

県内の里親、ファミリーホーム養育者の中から9名が参加。受講者の関心と意欲は高く、受講者の積極的な参加姿勢に支えられ、セッション後半にはグループとしてのまとまりもできてきた。最終的には受講者9名全員がプログラムを修了することができた。

で、時間に余裕がなく進行管理が難しかった。受講者からはファシリテーターの進行の不慣れを指摘する声もあった。

### プログラム時に工夫したこと

受講者が歓迎されていると感じられるように、毎回参加時に労いの声をかけ、音楽や飲み物、お菓子を準備し、空調にも気を配った。家庭での実践の報告には、常に肯定的なフィードバックを行うよう心がけた。



### まとめと課題

受講者からはプログラムに対する肯定的な評価が得られ、プログラム受講後も家庭で実践を継続しているという声も聞かれた。

課題としては、参加者の人数が比較的多めであったの



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

熊本乳児院 傘 正治 優里の会 八谷 斉 児童養護施設シオン園 山川 浩徳

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジTeamくまもと
- 【実施期間】 9月7日～11月24日(毎週木曜日) 開始時間10:00～終了時間13:00
- 【実施場所】 熊本県中央児童相談所判定会議室 慈愛園乳児ホームももホーム
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、養育補助者1名、地域小規模児童養護施設1名)  
出席率94%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 スタッフ6名



### 参加者募集からスタートまで

募集は、5月の県内全里親への募集要項郵送から始まり、熊本県里親協議会総会で、プログラムの概要説明とデモンストレーションによる周知を実施しています。また、児童相談所担当者と、ファミリーホーム養育機能強化のための活用について協議を行い、加えて、施設職員にも有効であると考え、ファミリーホーム、地域小規模児童養護施設職員にも呼びかけ、6名の参加でプログラム実践をスタートしました。

### 行政への働きかけ

フォスタリングチェンジTeamくまもとは、“行政”ではない民間組織の人間がファシリテーターとして実践を行っています。公的な養育を担う里親への支援としてのプログラムを実施するために、昨年度の開催と同様に熊本県、熊本市より名義後援をいただき、さらに、今年度は会場借用を児童相談所に依頼し、また担当者のスタッフ参加により、行政の理解にもつながることができました。



### セッションでは・・・

参加者の話を聴くこと、参加者同士の相互作用といった、このプログラムが大切にする部分に着目し、より活発で積極的なセッションとなるよう、ファシリテーターとして話しやすい雰囲気づくりや時間配分に工夫を行いました。



### その他にも

今年度は、養育里親更新研修のグループ討議の一コマをフォスタリングチェンジTeamくまもとで担当しました。また、熊本県での里親スキルアップ研修や福岡県大牟田児童相談所地区里親会サロンでもデモンストレーションを行っています。Teamくまもとは呼ばれたらどこにでも行きます！



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 宮城

丘の家子どもホーム 大内 治子

- 【実施主体】 みやぎ里親支援センターけやき
- 【実施期間】 9月6日～11月22日(毎週水曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 利府町内3会場(県内中央部に位置する地域)
- 【参加里親】 7名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名)  
出席率97.6%
- 【参加体制】 ファシリテーター1名 サポート2名 (補助スタッフ1～3名)



### 実施状況

里親支援センター初年度での実施でプログラムを行うことになったことから、里親会に協力を呼びかけ、会役員中心に参加者を募った。開始後途中から急遽ファシリテーター一人体制で実施することになったが、サポート者には打ち合わせ段階から協力をもらい、ロールプレイはすべてお願いすることで全セッションを実施できた。

参加型の研修は全員経験無し。はじめは参加里親から、戸惑いや不安の声もきかれたが、徐々に発言も積極的になり、参加意欲も増していった。都合により欠席があると聞いていた参加者2名が当日予定を調整し参加してくれたことも、よりグループ内の結束を高めてくれたと感じた。

ロールプレイも大好評。実演を見るだけでなく、「子どもの気持ちに気付けるから」と自ら役を引き受けて演じてくれる方もいて、とても盛り上がった。

里親会サロン等で参加里親がプログラムの良さを話してくれ、今後へのPRにもなった。

### プログラム時に工夫したこと

聞き慣れないカタカナ語・難しい言葉が多い。会場の壁に説明の言葉を貼り、確認しながらセッション進行ができ

るようにした。

他地域での実践を参考に、毎回の宿題の提出をセッション途中から取り入れた。フィードバックで話されなかった家庭での取り組みの様子を、スタッフ間で共有できるようになり、里親への具体的な声かけにも反映できた。また、今回は特別養子縁組済の参加里親が多かったため、セッション後半では若干の内容変更を行った。

### まとめと課題

参加里親とともに必死で取り組んだ3ヶ月。

運営は正直大変…しかし、回を重ねるごとにグループ内の結束が高まり、参加里親が自らを「一期生」と称してくれたことは、このプログラムが持つ魅力所以であろう。今後ファシリテーターを含む運営スタッフの確保は必須であるが、フォスタリングチェンジ・プログラムが、里親養育においてのスタンダードスキルとなっていけるよう、これからも実践を続けていきたい。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分

児童養護施設 小百合ホーム 御手洗 隆史(臨床心理士) 児童養護施設 森の木 外池 早織(社会福祉士)  
大分県中央児童相談所里親担当 谷本 幸子(社会福祉士)

- 【実施主体】 大分県中央児童相談所
- 【実施期間】 平成29年9月14日～12月7日(毎週木曜日) 10時～13時 全10回
- 【実施場所】 大分県中央児童相談所
- 【参加里親】 9名(養育里親4名、ファミリーホーム4名、児童養護施設職員1名)  
出席率82%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 スタッフ5名



### 実施状況

平成27年度に福岡市でのファシリテーター養成研修を受講したメンバー3名が中心となり実施しました。平成28年度には本プログラムを里親に紹介するため、一部のみの研修を1度実施し、今回が初めての本格的な実施でした。主体的に参加を希望した9名でスタートしました。

られました。例えば、子どもの行動に対して、単にその行動を叱るという段階から、プログラムを受けていく中で、その行動の前後関係やその時の様子を観察するようになり、子どもの行動を改善していくような対応や声かけができるようになったなどです。

### プログラム時に工夫したこと

養育のスキルアップという本来の目的のためには、まずは全10回、楽しくリラックスして参加できるように雰囲気作りに重点を置きました。お茶やお菓子、会場の飾りをはじめ、楽しく参加できる小ネタを随所にとり入れました。また、テキストの事例が日本に馴染まないものや分かりにくいカタカナ表現を日本語に置き換えました。

### まとめと課題

これまで、里親向けの研修はテーマごとの単発型でしたが、今回初めてプログラム型の研修を実施してみて、参加者に良い変化がみられることから、フォスタリングチェンジのようなプログラム型の研修は効果的だと感じました。しかし、課題として、実施体制の問題(ファシリテーターの養成と人員体制)があり、今後の実施は未定です。

### 参加者の声

他の参加者との意見交換やアドバイスが参考になったという意見やプログラムのスキルが実用的で参考になったという意見が多く聞かれ、結果、参加者に良い変化が多く見



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野

うえだみなみ乳児院 上鹿渡 菜穂子 軽井沢学園 金子 悠一郎

- 【実施主体】 うえだみなみ乳児院
- 【実施期間】 9月15日～12月8日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 児童養護施設 恵愛
- 【参加里親】 6名(養育里親6名)  
出席率99%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名 補助者4名



### 実施状況

参加者もスタッフも緊張した面持ちでスタート。参加者は終始熱心に取り組む、回を重ねるごとに皆の表情が明るくなり、グループの雰囲気ができていった。最終回はプレゼントや飲食物を持ちよって皆で祝い、和やかな雰囲気で終了した。ファシリテーターの1人が所用で休んだ時には補助者が代役を務めた。

### プログラム時に工夫したこと

セッション7と8の間に祝日が入るように日程を組んだ(フラワーパワーの区切れで、家庭での実践が肯定的だったため)。

参加者に関して、基本的には避けたい夫婦参加を認め、夫婦関係が支障とならぬよう当日のペアリング等を工夫した。

準備に関しては、本番を想定した読合せ、ロールプレイを含むリハーサルを本番とは別日に毎回行った。また、当日には里親一人ひとりに合わせたメッセージカードを毎回提供した。

### まとめと課題

一般的に準備を入念にしたことで運営が安定したと思われる。また、セッション7から8までの2週間は各々が工夫して楽しく実践していたため、休みを入れる時期は良かったと考える。

今回参加した夫婦は、その関係が学習の支障とならなかったばかりか、夫婦の共通言語となったことによる成果があった。

また、県内どの地域からも参加しやすいように会場を配慮したり丁寧なおもてなしは、参加意欲の維持に寄与したと見える。

参加者にとっては里親同士のワークが好評で、ディスカッションやロールプレイは家庭での実践に繋がったと思われる。

課題は、予定時間内の終了である。今回は時間延長が多く、ファシリテーターが焦る雰囲気も出たので、今後は知識提供を簡潔にする等して時間を有効に使いたい。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園二葉乳児院 二葉・子どもと里親サポートステーション  
河村 千代・長田 淳子

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園二葉乳児院 二葉・子どもと里親サポートステーション
- 【実施期間】 9月8日～12月1日(毎週金曜日) 開始10:30～終了13:30
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園法人本部会議室
- 【参加里親】 9名(養育里親・里母9名)  
出席率84%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名および補助者1名程度で運営



### 実施状況

二葉乳児院が里親支援機関事業として担当している都内4か所の児童相談所管内で、里子を委託されている養育家庭に案内を送付。うち自主的に申し込まれたご家庭を対象に実施。

#### 【進行】

基本的にはファシリテーター2名で進行。事前準備、ロールプレイ、当日のおやつ・飲み物の購入、欠席者への資料送付等もファシリテーターが行う。補助者が参加できる場合は、当日の板書や配布物を依頼する。

5月にフォローアップ講座を実施予定

#### 【実施しての感想】

- 参加者からは、新しいスキルを学ぶことはもちろん、すで

に出来ていることの気づきにもつながり、毎回講座を終えると笑顔で帰れる。一週間がポジティブに生活できて、次の回を心待ちにしていたというお話を伺っている。その笑顔にファシリテーターも元気をもらえたと感じている。また、回を重ねるごとに参加者同士仲良くなり、一人の参加者の悩みを皆が共有して励まし、解決策を考えようとする姿が見られた。

#### 【今後の課題】

- 開始時間
- 説明文や質問の文脈をわかりやすく修正していきたい。
- アンケートや宿題の出し方。
- 遅刻者への対応、個々の揺れに対してのフォローの仕方
- 日本でも手に入りやすい補助教材リスト(DVD、書籍等)



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 千葉

児童養護施設 ほうゆう・キッズホーム 里親支援専門相談員 馬場 敏  
児童養護施設 房総双葉学園 里親支援専門相談員 野村 恵美

- 【実施主体】 千葉県児童福祉施設協議会 里親支援専門相談員会
- 【実施期間】 10月5日～12月21日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 社会福祉法人鳳雄会 特別養護老人ホームほうゆうの里 新館やよい 地域交流スペース
- 【参加里親】 9名(養育里親5名、ファミリーホーム2名、養子縁組2名) 出席率95%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名  
他スタッフ 県内の里親支援専門相談員5名がローテーションで参加
- 【フォローアップ】 第1回 平成30年3月8日(木) 10時～13時

### 実施状況

- プログラム開催に向け、募集地域、主催、実施会場、経費、補助スタッフ等を検討。
- 7月末、千葉県里親会と打ち合わせ、主催団体と開催月を決定。千葉県里親会の協力が得られる。
- 9月初旬、千葉県里親会から案内を配布。  
千葉市内の里親へは個別に案内。
- 9月末、参加者全戸の家庭訪問を実施。
- 出席状況は、セッション3からの参加者が1名、諸事情での欠席が3名(各1回)。全体の出席率は95%。
- 回を重ねる毎に参加者の熱意が高まり、互いの関係性も強まった。養育で気になる事を安心して話せる場として参加者に認識された。
- セッション中、講義内容に戸惑っていた参加者も後追いの形で理解に繋がった。最終回が近づくと「もう一度復習で12週勉強させてもらえないか?」と何人もの参加者から声があがった。
- 急遽、子連れでの参加が必要となった場面では、スタッフが託児を担当し、対応。



- スキルの実践に困惑していた参加者も、あるセッションで子どもに適したスキルに出会え、自信に繋がった。

### プログラム時に工夫したこと

- 季節を感じる手作りの装飾や、折り紙の出席シールを用意する等、温かな雰囲気づくりを心掛けた。
- 理論の説明の際、パワーポイントのスライドだけではなく、手作りのパネルを使って解説、修了時に資料として配布した。



### まとめと課題

- 主催団体を明確にした事で募集方法が広がり、協力体制が築けた。
- プログラム修了生が、県内各地で様々な活動の中心として活躍する様になった。
- プログラム定着には最低でも県内に4～5人のファシリテーターが必要。
- 会場費や茶菓子代の経費、開催日や託児についての要望に応える課題は大きい。

## 里親会学習会 フォローアップセッション

| 天久 真理・山形 裕子 |

- 【実施日】 3月1日、4月21日、9月6日、2月14日、10時～13時
- 【実施場所】 みつけばる会館(福岡市城南区南片江5丁目)
- 【参加里親】 3月:8名 4月:5名 9月:6名 2月:6名(福岡市里親、佐賀県里親)  
出席率78%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名 サポート2名

### 実施状況

初回はセッション終了後三ヶ月しか経過していなかったが、全員が一堂に会した時は同窓会のような歓声が飛び交い、学習者に仲間意識が芽生えていて、これまでの里親研修等にはないピアサポートの手応えも感じた。養育者からは、フォスティングの養育効果が多々報告され、今後も学んだ養育方略を継続したいと全員で再確認する。

2回目は、佐賀から参加された仲間二人の激励を兼ねて、福岡メンバーが当地に出掛け、ホテルで食事を囲んで懇談会&近況報告会となる。

3回目はセッション11「振り返りましょう」の手法で感情表出が激しく養育が難しい姉妹という設定でロールプレイをして、アテンディングを学習した。4回目は、前回より5ヶ月後で、養育者の感情コントロールの難しさが全員から発表され、改めて、家庭養護における養育者の基本的姿勢「温もり」に傾注し、このプログラムの基本「フラワーパワー」図を確認する。

### まとめと課題

養育経験が豊富な人やファミリーホームの養育者が多く、毎回意見が活発に出る。しかし、子どもや家族の病気等で当日不参加者が出るのは、惜しい。回を重ねるごとに、参加者がお互いの家庭状況を把握し、問題提起された養育の困難さに共感し、その養育方略を共有できていた。フォローアップセッション後「すっきりした」「来て良かった」という声が多く届けられる。受講生の要望もあり、今後も年4回のフォローアップセッションを継続することにした。その度、養育者の感情コントロールが課題となりそうである。





## フォスタリングチェンジ・プログラム フォローアップセッション

プログラム終了後、家庭での実践を支えるため、振り返りを行うセッションを各地区で実施しています。現在は、福岡市、福岡県久留米市、静岡、千葉、宮城の5つの地区で実施されています。

内容として、フラワーパワーをみて、フォスタリングチェンジ・プログラム全体のスキルの復習を行い、各家庭での近況を報告していただいています。その際に、ペアワークを実施して、スキルの復習を行っている地域や実施前に簡単にわかりにくかったところやもう一度復習をしてみたいところを記入していただいているなど、地域ごとの取り組みがなされています。

### 参加された里親さんの感想

- 子どもが成長しているように、親もそれぞれ成長が感じられたのもしくなったなあと思えた事がとっても嬉しいです。
- 体験談をきくことは本当にいろんなことを気付くきっかけになるため、フォローアップがつついていくとよいと思いました。
- 褒めるのを忘れかけていたときに、ちょうどこういう研修を受けることができた。褒めるだけで家庭が変わった。
- ちょっと忘れていたスキルを思い出すことができたので良かったです。各々の皆さんの生活の様子を改めて聞けることで、我が家への応用もピンとききました。里親の集まりとは違う同志との話はやはり身になります。
- 半年前に比べ、子どもの成長を感じることができた。また、最近皆さんの話をきいていて、誉めることを意識できていないと気づいた。全てというより各家庭に必要なスキルを使っていけばいいのだなと思いました。
- 里親として共通の場で、自由に語りあえる場を受講者だけではなく、どなたも求めているのではないだろうか？生き生きとした語り合いができなければ、里親はつかれてしまうと思います。
- 日常で学んだスキルを使っていると思っていたが、やはり抜けている点などをこのアフターセッションで気付けるので良い機会だと思います。スキル実践の対象はその時の子どもがかかえる問題によって変化するので、少しずつでもスキルアップできるようなセッションになればと思います。



福岡市でのセッションの様子

## フォスタリングチェンジ・プログラムを終えて 参加した里親さんの感想



● 受講してよかったところは、同じ里親として、子どもと向き合い 更に 子どもと良い関係を築く為に、前向きに頑張っておられる方々の存在そのものが励みになり、有り難く感じました。共に学び合えたこと、そして 毎回の確かなアドバイスで 参加者を導いて下さったファシリテーターのお働きに感謝しています。子どもには、毎回 こんな宿題が出たよ!と伝えながら楽しく学び、実践出来たと思います。

● 研修を受け、子どもへ接していく中で、分かっていなくてもなかなかできていなかった私自身に気付かされました。その中でも、子どもと10分遊ぶというところでは、それを子どもに伝えると「10分も遊んでくれるの?」ととても喜んでくれたことです。施設という集団で生活する中で、その中でも目をかけている存在だったお子さんでしたが、そうやってきたことに驚きと申し訳なさを感じました。その中で前向きに声を掛けることで子ども自身が明るく素直になってきたように思います。

● 毎回、あっという間の1週間で、楽しく通いました。宿題にうまく取り組めない時もありましたが、できなかったと落ち込んでも、みんなに会える(講師も含めて)ことの方が嬉しくて一度も休まず参加することができました。また、自分の養育の仕方は少し厳しいかもと気づき、自分は褒めることが苦手なんだということも知ることができました。

● 教材が英語の直訳になっていて、日本の文化を考えれば不自然な点が多く、臨場感に欠ける。日本の現状に即してテキストの文脈を改善できる場所は多いと思う。

● 今回のプログラムに参加することで、理論に基づくスキルを学べ、実践することで私自身の余裕が大きくなりました。その事により、里子の行動を客観的に見て、自分の感情をコントロールし、対応する技術が身に付きました。お陰様で、里子との関係もよりスムーズになり、負担がとても減った様に感じます。

● 1コマ1コマ本当にわかりやすく具体的に説明していただき、それを1週間実践し、また振り返りをするなど、身につけやすい講座となっていて、またいろんな気づかなかったことに気づけて良い!!

● 障がい特性に視点を置きがちだったが、子どもの行動の意味についてまず考えるようになった。

● 里親として自信を無くしかけていた時に受講をしたのですが、子どもを褒めることが子どもの良い変化に繋がることがよくわかり、実践できるようになった。





●これまでの児童相談所の研修とは全く違い、児童相談所との心理的距離が近く感じた。

---

●これまで聴いて納得するだけで流れてしまう研修が多かったので、宿題があることが良かった。実践強制(笑)は良い経験でした。

---

●スキルを身につけることだけでなく、自分の時間を持ち、リラックスし、気力を再充電することができた。そのことで、子どもと向き合うことを大切にしようと思う気持ちが湧いてくることに気づいた。

---

●余裕、ゆとりが生まれ、里親として、自分を褒めてあげてもいいかなと感じられるようになった。

---

●同じ里親として苦勞している参加者の方とも知り合うことができ大きな収穫になった。

---

●少し意識しただけでも子どもにとっては大きな影響を与えるんだなぁと日々の生活の10分間(アテンディング)を有効に使おうと思いました。がんばります。

●アテンディングなど、日頃聞きなれない支援テクニックなどを、多くの支援仲間とともに、見聞きし、体感しながら学習出来たことに、大きな達成感や喜びを感じ、それらの技法や考え方も大いに取り入れ、現在支援に繋げているところです。ともに成長をつづけながら、のびのびとした花が将来咲くよう、応援していければと思います。

---

●研修中でのロールプレイがあるので、宿題がわかりやすく、宿題があることで、意識をもって子どもと関わったり、子どもの新たな発見もあり、ふりかえりで他の里親さんのアドバイス・体験もとても勉強になり、自分自身の引き出し(子どもの関わり方)が増えた気がします。

---

●1日5回ほめる事、一緒にあそぶ事、肯定的に子どもを見つめる事、よく考えてみるとごくあたりまえの事ができていませんでした。子どもが「こんなにほめられてうれしい」「お母さんと一緒にあそべて幸せ」とすばらしいプレゼントの言葉を言ってくれます。とてもうれしいのですが、いままでできていなくて彼女にきつい思いをさせてしまっていた事、申し訳ないなあと思っています。



# プログラムに関する里親の評価

受講者76名(宮城、東京、千葉、山梨、長野、静岡、三重、福岡、久留米、大分、熊本)計11か所

最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つ回答。記入者74名)

スキル名	回答数
●アテンディング	47名
●選択的無視	38名
●効果的に褒める	32名
●ご褒美及びご褒美表	29名
●タイムアウト	24名

子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった⇔5:大変よくなった)

実施場所11か所の合計 対象児(記入者73名) 平均4.2点/5点満点

実施場所11か所の合計 きょうだい児(46名) 平均3.9点/5点満点

## 関係性

- 自分の気持ちを素直に伝えるようになった
- 褒めた時の表情が以前よりもニコヤカになった
- 穏やかに会話する時間が増えた
- ほめられることを喜ぶようになった
- 学校であった事や、自分の気持ちを話してくれるようになった
- 「○○しようね」と声かけすると「はい!」「分かった!」と言えるようになった
- スキンシップが増えた。

## 感情調整

- 暴言が少なくなった
- 気に入くない事があると壁をドンドンける行動がなくなった。
- 「泣く」で訴える子がこらえられるようになった
- 自分の気持ちをうまく表現できるようになった
- 原因不明のかんしゃくがなくなった
- 思い通りにならないことがあっても「うわー!!」とならなくなった
- すぐきれなくなった

## 行動

- ルールを決めて守れる様になった
- 親が言わなくてもご飯の片付けが出来る様になった
- 大人が言う前に子どもが自分から動くことが増えた
- 自分がどうしたいかを選び、言えるようになってきた

## 学校

- 学校で友達とトラブルをおこすことが少なくなった
- 学習に意欲的になった。
- 学校でも委員会などで代表として全体で発表するなど自信がついてきた
- 朝7:30までに家を出て登校するようになった
- 宿題の字を丁寧に書くようになった
- 時間を守って宿題をするようになった
- 朝もトラブル無く、学校を休まず、毎日行くようになった。

## その他

- 遊びの終わり、片づけなど、区切りをつけられるようになった
- 切替が早くなった。
- ちゃんと注意することを聞けるようになった
- 子どもたちがお互いの行動の善し悪しをみるようになった
- 約束を守るようになった
- 笑顔が増えた
- 人の気持ちがわかるようになった。



## 里親と里子の関係性の変化(5段階評価 1:とても悪い⇔5:とても良い)

実施場所11か所の合計(記入者63人) 平均4.4点/5点

- 私の引き出しが増えて、余裕が出てきた。
- 里親自身の感情コントロールが落ち着いてできる事が増えた。楽観的になった。子どもを許すことが増えた。子どもの自由を認めることが出来た。
- スキンシップが増え、関係が深まり、距離感が縮まった。
- 褒めることを意識するようになり、それが続いている。
- 前までは、必要以上に子どもに指示をしていたと思う。受講後は、いろいろなスキルを思い出して、楽しく過ごせるようになった。(私の)子どもへのイライラも減った。

## 里親としての感じ方への影響

### 内省

- 私が変わると、子どもがとても楽になりました。成長できることが良く分かった。
- 自分の時間を持ち、気分転換し、リラックスし充電することで子どもに向き合うことを大切にしようと思う気持ちが湧いてくることに気づいた。

### 変化

- とてもポジティブにこどもへの対応を変えてくれた
- 子どもの対応にストレスが減った。
- 心にゆとりが生まれました。
- 子どもをよく観察し、対応を考えることが出来る様になった

### 自信

- 余裕、ゆとりが生まれ、里親として自分をほめてあげてもいいかなと感じられるようになった。
- 気持ちが解放された。こういう接し方をしていけばいいのだと、安心できた。

### 仲間

- 仲間と悩みを共有でき、心の中が整理され、一歩前に進めます。
- 他の里親さんと親しくなり励まし合うようになりました。
- 里親という立場での子育ての仲間や、支援者の存在は一人ではないと思われました。
- 単なる里親友達ではない「仲間」ができたのがうれしい

## 家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか。(複数回答)

記入者(66名)	回答数
a.全く役に立たなかった。	1名
b.コースに参加することに自信が持てた。	16名
c.里親として支援されていると感じた。	50名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった。	37名
e.その他(自由記述)	18名
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭訪問の時にコースの内容を説明して頂けたので不安がなくなりました。</li> <li>● ファシリテーターに事前に会うことで、信頼感がアップした。事前の家庭訪問でコースの内容や流れを教えてもらい、見通しをもって参加できた。</li> <li>● 家庭訪問の時に思っている事を正直に言ってもいいと言われたことです。里親、里子共に大切にされているとひしひしと感じました。</li> </ul>	

## ファシリテーター フォローアップミーティング

地域での取り組みを支えるため、養成講座後もファシリテーターが集まり、成果や疑問を共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を開催しました。ファシリテーターの資質向上はもとより、疑問解消や支援者同士の繋がりという観点からも有意義な機会となっています。

### 九州ブロック

福岡市、福岡県久留米市、大分、熊本

#### 第一回目 2017年8月19日

- 関東ブロックと合同で実施(後述)。

#### 第二回目 2018年1月19日

- 九州ブロック各地区によるプログラム実施報告。
- 熊本チーム、大分チームによるセッションのデモンストレーション。
- 各地域から、実施の報告とプログラム終了後のアフターセッションについての報告がありました。デモンストレーションでは、準備や雰囲気づくりの工夫など、学びの多い時間となりました。



### 関東ブロック

宮城、東京、千葉、三重、山梨、長野、静岡市

#### 第一回目 2017年7月1日

- スーパーバイザーに松崎佳子先生と上鹿渡和宏先生をお招きした。
- 4月より実施している静岡、山梨、三重から、実施状況報告。松崎先生、上鹿渡先生からご助言をいただいた。
- 次に、今後、実施予定の地域(宮城、長野)より、現在の進捗状況をご報告。
- 最後に、里親支援の意見交換を行い、うえだみなみ乳児院の取り組みについて、丸山院長よりお話いただいた。



#### 第二回目 2017年8月19日

- 九州ブロックと合同で実施(後述)。



### 第三回目 2017年10月14日

- スーパーバイザーに上鹿渡和宏先生をお招きした。
- 9月より実践している宮城、東京、長野、千葉より、実施状況報告。その後、上鹿渡先生や上半期に実施した地域(静岡、山梨)の方々からご助言をいただいた。
- 4月実施した地域から、アフターフォローアップセッションに関する報告や質問等があった。



### 第四回目 2018年1月20日

- スーパーバイザーに松崎佳子先生、上鹿渡和宏先生をお招きした。
- 各地域より、今年度のプログラムの実施等をご報告いただいた。また、来年度のプログラム活動予定の報告。
- 次に、フォスタリングチェンジ・プログラムを実施した中で、実施しにくかったセッションやスライド、修正が必要な点、全体で共有しておくべき課題等を検討。

## 九州ブロック、関東ブロック合同開催 2017年8月19日

### 九州ブロックは第一回目、関東ブロックは、第二回目。

- 九州ブロックと関東ブロック合同によるプログラム実施及び実施予定報告。
- 福岡県久留米市、静岡市、山梨、三重各チームによるデモンストレーション。実施上の留意点や課題を共有し、活発な意見交換の場となりました。



## コンサルテーションデイ 2018年3月2日

- 養成講座ファシリテーターのキャッシューさんとキャロラインさんをお招きし、九州ブロック、関東ブロック合同でのコンサルテーションを実施しました。
- 主な内容は、今年度実施した全国11か所でのプログラム実践に対する講評とスキルの復習でした。
- 報告後、お二人のファシリテーションの下、疑問や課題について答えを導き出していくようなグループワークが展開されました。また、2人の子どもに対するアテンディングの復習を、ロールプレイを交えて実践的に再勉強することができました。



全体集合写真  
中央 キャシーさん(左) キャロラインさん(右)

## プログラム普及のための取り組み



### 各都道府県での研修会、後援会の実施

●宮城県	2017年10月	宮城県里親支援強化研修会
	2018年 1月	みやぎ里親支援センター実務者会議
	2018年 1月	子どもの村東北研修(フォスタリングチェンジ・プログラムの理論と実践)
	2018年 2月	北部児相里親サロン
●東京都	2017年 9月	子どもの虐待防止センター 第44回子どもの虐待防止セミナー里親・養親の子育て講座
	2017年12月	東京都 特定非営利活動法人東京養育家庭の会 里親専門研修
●千葉県	2017年11月	千葉県里親会東上総支部研修会
	2018年 2月	里親支援専門相談員活動報告会
	2018年 2月	里親支援者研修
●新潟県	2018年 1月	新潟県福祉職員協議会 テーマ別研修会(児童分野)
●富山県	2017年10月	富山県里親講演会「広めよう里親inとやま2017」
●長野県	2017年 9月	東御市教育委員会教育講演会
	2017年12月	第7回信州子どものこころ診察研究会基調講演
	2018年 2月	長野県松本市要保護児童対策地域協議会での講演会 と 松本赤十字乳児院での研修会
●山梨県	2017年11月	山梨学院社会的養護フォーラム2017
	2018年 2月	山梨中央児童相談所研修会
●静岡県	2017年 5月	静岡市里親家庭支援センター第1回里親スキルアップ研修
	2017年12月	静岡市里親家支援センター第14回里親スキルアップ研修
●岡山県	2018年 2月	岡山県里親フォローアップ研修
●広島県	2017年11月	広島県里親研修
●鳥取県	2018年 1月	鳥取養育研究所 第11回研究発表大会基調講演とシンポジウム
●山口県	2017年11月	社会福祉法人 同朋福祉会 職員研修講座 平成29年度下半期まなびセミナー
●福岡県	2017年10月	九州児童心理司研究協議会研修会
	2018年 2月	福岡県大牟田市里親サロン



●熊本県	2017年 6月	里親協議会総会
	2017年 9月	熊本県里親更新研修
	2017年11月	熊本県里親更新研修
	2018年 1月	熊本県里親スキルアップ研修
	2018年 2月	社会福祉法人慈愛園児童養護施設シオン園 「地域福祉公開講座」
●宮崎県	2018年 3月	里親普及促進センターみやざき 「里親制度普及啓発講演会」

## 子どもの家庭養育推進官民協議会(2017年9月22日、静岡市にて開催)

- 「すべての子どもたちが家庭で育つ社会の実現に向けて」をメインテーマに、子どもの家庭養育推進官民協議会と静岡市主催により、3部からなる「平成29年度研修会」が開催された。その中で、上鹿渡和宏氏(長野大学教授)より、フォスタリングチェンジ・プログラムの概要と日本への導入についての経緯が解説、報告された。
- また、パネルディスカッションでは、福岡:松崎佳子氏(NPO法人 SOS 子どもの村JAPAN)、三重:野田珠輝氏(県北勢児童相談所)、静岡:佐野多恵子氏(静岡市里親家庭支援センター) 3名よりそれぞれの地域での実践が報告された。
- 後半は、パネラーと実際にプログラムに参加された里親さんとのディスカッションがあり、知識とやってみることへの違いや困っていたことへのストレスが減ったなどが報告された。

## 明治安田こころの健康財団平成29年度発達障害・専門講座11(2017年12月)

### 「発達障害・トラウマの治療における家族へのアプローチ」

- 山川浩徳氏(児童養護施設シオン園)が上記研修会にて、フォスタリングチェンジ:里親のための支援プログラムと題し、プログラム概要と熊本県におけるプログラム実施状況を報告された。
- 感想として、有効なプログラムであり、普及を願う声が多く記載されていた。

## 日本子どもの虐待防止学会 学術集会ちば大会(2017年12月)

### 企画シンポジウム「委託後里親研修としてのフォスタリングチェンジ・プログラム:実践と今後の展開」

- 松崎佳子氏(NPO法人SOS子どもの村JAPAN)の企画、進行により、上鹿戸和宏氏(長野大学教授)、瀬里徳子氏(福岡市こども総合相談センター)、山川浩徳氏(児童養護施設シオン園)からそれぞれの実践と今後の課題についての報告と提示があり、参加者も交えてディスカッションが行われた。

## 2017年度の実践と今後の展開

| SOS子どもの村 JAPAN 理事・広島国際大学 教授 松崎 佳子 |

フォスタリング・チェンジプログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。昨年度、福岡と熊本2ヶ所の実施でスタートしたFCPは、2017年度は、久留米、静岡、山梨、三重、宮城、上田、東京、千葉、大分が加わり11ヶ所での実践に広がりました。11ヶ所の平均出席率は93%と非常に高いものでした。各地区から、里親の自律性の向上、自信の回復など成果が報告されており、非常に有効な研修であるとの手ごたえを感じています。

### 実践のなかで工夫していること

あたたかい雰囲気の中かでプログラムが実施されるようさまざまな配慮が行われています。ウェルカムボード、季節に応じた暖かい・冷たい飲み物、お菓子の用意などです。プログラムは、理論やスキルを家庭で実践できるように、体験的なロールプレイやグループでの話し合いが大半の内容になっています。参加者同士の相互作用を大事に話しやすい雰囲気づくりや時間配分が重要です。主催者である実施者側も、2名のファシリテーターだけでなく、補助者がチームとして関わっている地域が大半で、そのチーム性が主催者側と里親の相互作用を生み出してもいます。「こんなに大事にされたのは初めて」という里親の言葉は、今後の里親支援のキーワードの一つになるかもしれません。

また、できるだけなじみのあるものにしていくために事例

のシナリオを日本人名にする、日本の風習に応じた内容にする、馴染みのないカタカナ専門用語を日本語に、説明の言葉を常に見ることが出来るように壁に貼っておくなどの工夫もされています。これらについては、さらに経験を積み重ね、日本版のスタンダードを作っていく必要があります。

### 実施についての課題として

今後継続的に研修を実施していくためには、以下のような課題があります。

継続的開催に向けて会場や運営体制を確保すること。特に、会場費や茶菓子代等、FCP実施のための安定した予算の確保が必要です。

ファシリテーターは、現在各地域約2~3名の養成が行われていますが、異動等により実施が難しい地域も出てきています。安定した実施ができるためには、さらにファシリテーターの養成が必要です。また、プログラムの質の保証のためのファシリテーターのフォローアップ研修やコンサルテーションのしくみも構築していく必要があります。

また、託児の問題や、開催曜日を土・日や夜間にできないかなどの要望も出てきています。

特に、プログラムの有効性を里親や県、児童相談所、関係機関等にどのように啓発し、協力を得ていくかは重要なことです。

FCP研修を通して、常に子どもや家庭の新たな問題に対応していかなければならない里親の現状を実感しており、研修後の継続的な支援のしくみも検討していく必要があると思います。





## プログラム評価の問題について

FCPの評価は、2つの方法で実施しています。

一つは、各セッション終了時に当日のプログラムスキル等の理解度などについてのアンケートとファシリテーターについての評価です。ファシリテーターはその結果を参考に次回のセッションの進め方を検討します。

さらに12セッション修了時にプログラム全体についての評価と感想を書いていただきます。この結果は、報告書の21～24ページにまとめています。

もう一つは、プログラムの開始前と修了後に行う以下の6種類の質問紙調査です。①アラバマ・ペアレンティング質問票(APQ)②子どもの強さと困難さアンケート(SDQ)③里親の自己効力感についての質問紙(CEQ)④アタッチメントの質に関する質問紙(QUARQ)⑤里親のコーピング方略尺度(CCS)⑥ビジュアル・アナログ尺度(気がかりな子どもの行動の心配度)(VAS)。

2016年度は福岡と熊本の受講里親さん12名の質問紙回答についてt検定を実施し、アタッチメントにおける尺度(QUARQ)が有意に上昇していること、気がかりな里子の行動に関する尺度(VAS)が有意傾向ではありますがプログラム後に低下していることが認められました。しかし、2017年度は、全国11カ所で実施され、74名の里親が受講していますが、この方々の質問紙調査についての評価はまだできていない状況です。FCPは、英国において無作為抽出調査で有効性のエビデンスが得られた研修プログラムです。日本においても検証をしていく必要があります。2018年度は、評価に関する検討チームを立ち上げ検証し

ていく予定です。

## 今後の展開について

FCPの日本への導入に向けて、2015年度より日本財団の助成を受け、学識経験者、児童相談所や里親会、施設経験者からなる企画委員会を立ち上げ検討し、2016年3月福岡においてファシリテーター養成研修を実施し、20名のファシリテーターを養成しました。

そして、2017年3月東京において第2回ファシリテーター養成研修が実施され22名が修了しました。ファシリテーターの養成研修は、できるだけ同じ地区・機関から2名受講してもらい、具体的な実施に繋がるようにしています。

2017年度は、本報告書の各地の実施報告のとおり、全国11ヶ所で実施され、計74名の里親さんたちに受講していただきました。さらに、2018年3月長野上田で英国講師による第3回ファシリテーター養成研修が実施され、22名が修了し、それぞれの地域でFCPを実施する予定になっています。今後、2018年度は、仙台と和歌山で第4回、第5回の養成研修が予定されていますので、2018年度末には約100名のファシリテーター体制になる予定です。

これらを基盤にさらにFCPが全国で実施展開されいくようにと願っています。そして、今後、さらに、日本でのファシリテーターの養成のしくみ、プログラムの質の確保のためのファシリテーターの実践体験を共有し検討するネットワーク、検証など実施システムを構築していくことが必要と考えています。

発行 2018年5月

特定非営利活動法人 SOS子どもの村JAPAN

〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 サンビル3F

TEL.092-737-8655 E-mail:info@sosjapan.org

[www.sosjapan.org](http://www.sosjapan.org)

公益財団法人 日本財団 助成事業



Supported by



THE NIPPON  
FOUNDATION



SOS 子どもの村  
JAPAN

NO CHILD SHOULD  
GROW UP ALONE